

問題の所在と方向性を考えてみる 大野

2025.9.8

1、連鎖し重なり合う5つの矛盾 日本農業問題の今

①生産力劣化

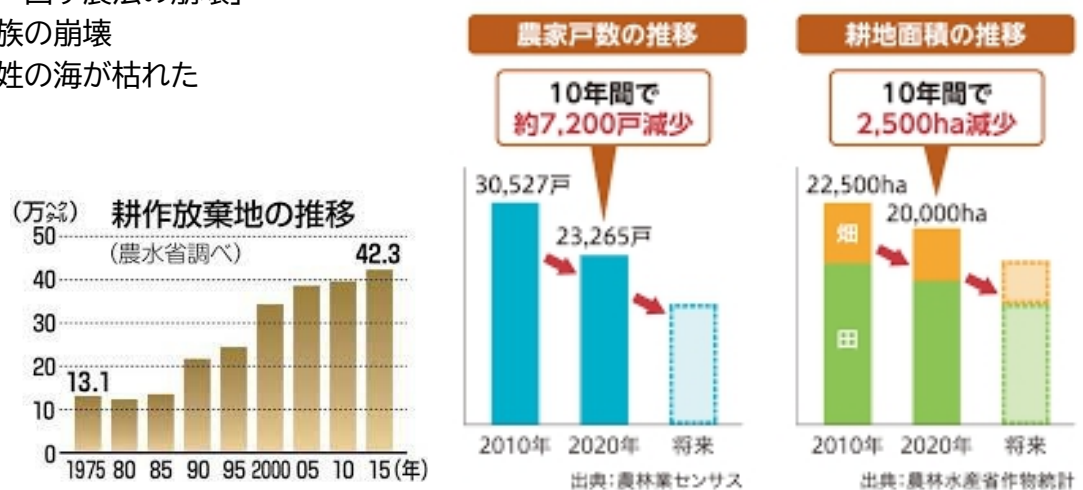
担い手

土地

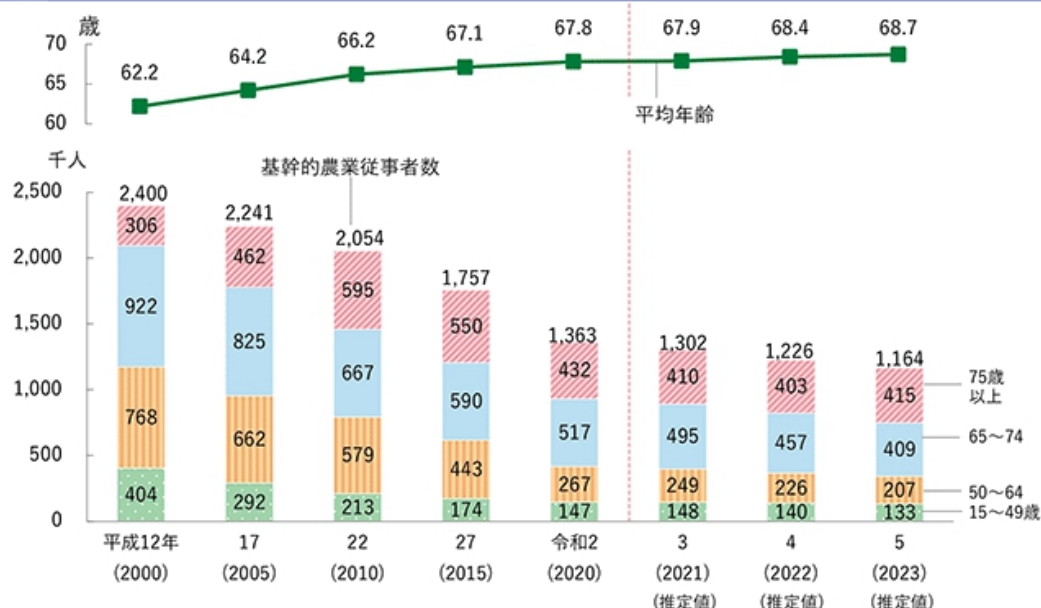
農業の単純化 「回す農法の崩壊」

女性の反乱と家族の崩壊

地域の崩壊 百姓の海が枯れた



図表3-2-2 基幹的農業従事者数と平均年齢



資料：農林水産省「2000年世界農林業センサス」、「2005年農林業センサス」、「2010年世界農林業センサス」（組替集計）、「2015年農林業センサス」（組替集計）、「2020年農林業センサス」、「農業構造動態調査」を基に作成

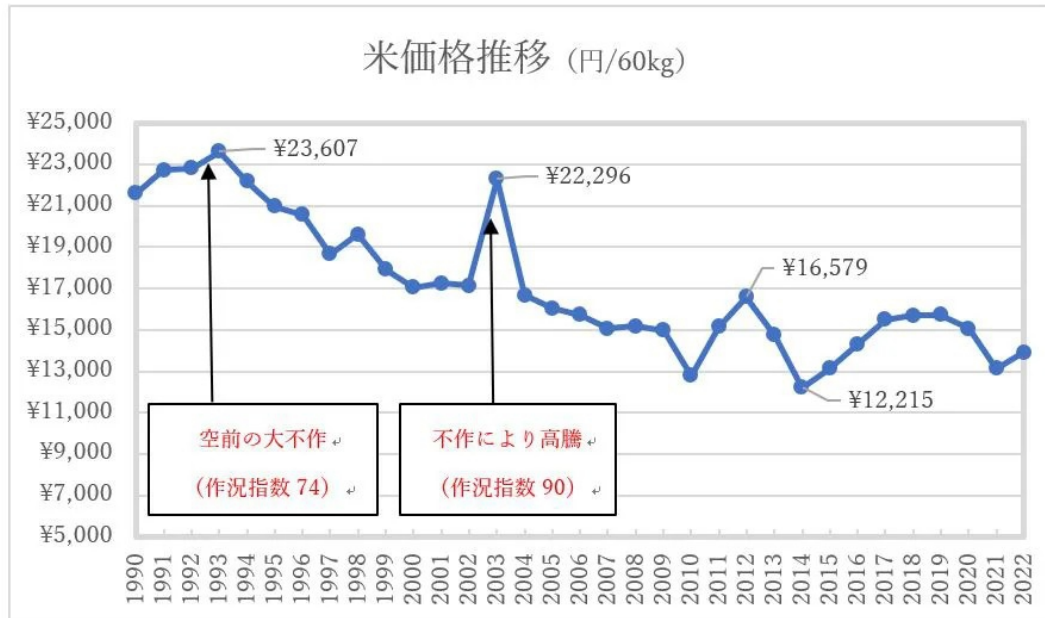
注：1) 各年2月1日時点の数値。ただし、平成12(2000)、17(2005)年の沖縄県については前年12月1日時点の数値

2) 平成12(2000)年及び平成17(2005)年については販売農家の数値

3) 令和3(2021)、4(2022)、5(2023)年については、農業構造動態調査の結果であり、標本調査により把握した推定値

②市場化

市場に寡占化と情報のブラックボックス化
行政の機能不全
川上(生産者)と川下(消費者)のバラバラ化
食品資本によるインテグレート
農産物価格の長期低落
(事例)生産者米価



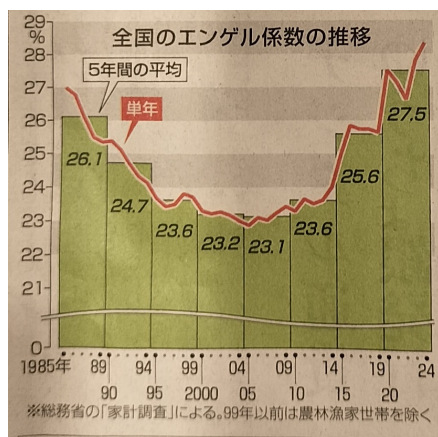
資料

(財) 全国米取引・価格センター調べ (2008 年 3 月)

(公益社団法人) 米穀安定供給確保支援機構 (2023 年 3 月)

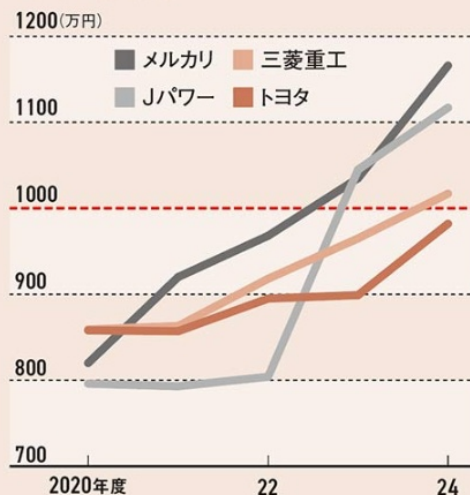
③貧困化

収奪と内部留保
底辺化周辺化する労働力
低労賃低農産物価格
エンゲル係数と食費
栄養不足人口の増大

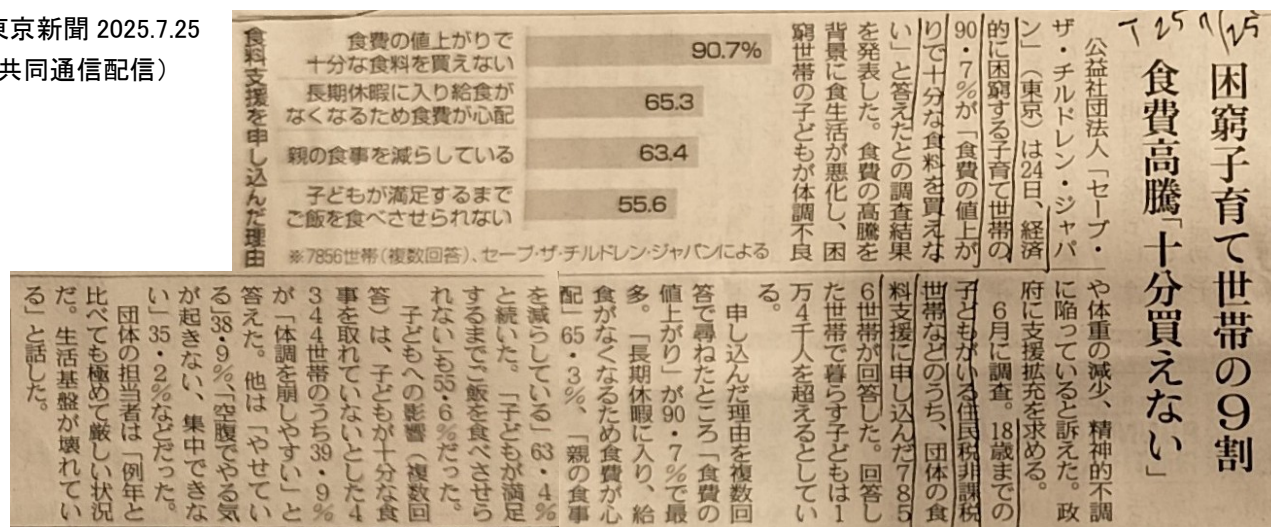


賃上げが進み 大手企業の平均年収も急増

●平均年収の推移



注:メルカリは6月期決算 出所:各社の有価証券報告書



栄養失調(えいようしつちょう)の症状は、体が必要な栄養素(たんぱく質、ビタミン、ミネラル、エネルギーなどを十分に取れていない状態により引き起こされます。症状は栄養不足の種類や重症度によって異なりますが、以下のような一般的な症状があります：

・一般的な症状(複数の栄養不足によるもの)

- 体重減少
- 倦怠感・疲れやすい
- 集中力の低下
- 免疫力低下(風邪をひきやすいなど)
- 食欲不振
- 皮膚や髪の毛のトラブル(乾燥肌、抜け毛、髪がパサつくなど)
- 顔色が悪い(青白い)
- 筋肉量の減少・筋力低下
- 浮腫(むくみ)
- イライラ、不安感、うつ症状

④国際化

日本のコメ市場のステージが変わった
輸入と輸出に拡大 国境措置の解体
国際競争と価格低落
日本の高コスト稲作と競争力
自由貿易と保護貿易
重なり合うグローバリズムとナショナリズム
軍事安保—経済安保—食料安保の三層構造

⑤地球化

気候変動による生態系崩壊
技術主義の限界
菊地富夫さんの話から
峯村正文さんの話から
AI とバイオテクノロジーで克服できるのか

2、どうしたら

・考える視座をどこに置くか

食への権利

世界人権宣言（1948 年）第 25 条

「すべての人は、食糧を含む生活に十分な水準を享受する権利を有する」と明記。

経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（ICESCR）第 11 条（1966 年）

各国は「適切な食糧への権利」を承認し、飢餓からの自由を保障するための措置をとる義務を負う。

FAO「食料への権利に関する自発的ガイドライン（2004 年採択）」

「十分な食料への権利」＝ 身体的・経済的に食料にアクセスできる権利

「適切な食料」＝ 栄養的に十分で、文化的に受け入れ可能な食料

各国は法制度や農業政策、社会保障を通じて実現を図るべきとされている。

日本国憲法

前文 われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

食の民主主義

何にでも民主主義がある(ダグラス・ラミス)

食の民主主義とは 誰でも、いつでも、どこでも、人として尊厳をもって生きていける食を獲得することが出来る状態

・論点

農産物価格論

憲法が規定する生きる権利を基礎に再構成する必要がある

不払い労働(無償労働)をなくす

社会保障制度とつなぐ

生活保護基準と農産物価格

労働問題とつなぐ

最賃と農産物価格

「コメと野菜でつながる百姓と市民の会の討議から」

自給とはどういうことか

国家の自給 地域の自給 家の自給 個の自給

菅野芳秀「置賜自給圏の試み」

食の自給 エネルギーの自給 住の自給 教育と文化の自給

同志国自給の気味悪さ

食料安全保障と食料主権

・つまるところ国家とは何か

植民地化による自給圏拡大

コメの北進と南進

植民地農政 朝鮮植民地支配は農業から品種強制、土地の改良と収奪、深耕多肥

(守田四郎「農業にとって技術とはなにか」

藤原辰史「稲の大東亜共栄圏」

山辺健太郎「日本統治下の朝鮮」)

移入米と飢餓輸出 コメの強制連行 内地米価低落

昭和恐慌―東北冷害―移入米―農民の貧困化―満蒙開拓(猪俣津南雄「窮乏の農村」)

総力戦と大東亜共栄圏の幻想

農本主義と天皇制ファシズム(飯沼二郎「思想としての農業問題」)

柳田国男の転向(赤坂憲雄「柳田国男を読む」)

米タイコメ戦争と人権・環境破壊(大野「現代お米大研究」)

・技術、農法論

大規模単作と複合農業

有畜複合論の行方

玉川農協の実践、山地酪農、水田酪農

水田農業とは(金沢夏樹「水田農業を考える」)

緑の革命の農業論(大野他編著「アジア小農業の再発見」)

農業生産力とは何か(「百姓伝記」 徳永光俊「日本農法の水脈―作りまわしと作りならし」 陣

内義人「人間と自然の生産力」 椎名重明「農業にとって生産力とは何か」)

・耕す主体を探す

上向発展の限界と大規模化の行方 低価格と高いコスト

水と土の管理 社会的共通資本の扱い方

山と森 畠山「森は海の恋人」、田んぼも

大規模経営の基礎は交付金

農業における個と協同、有機的連携

米沢郷牧場(山形 高畠町)

渡部務さんの話から

菅野春平さんの話から

菅原庄市さんの話から

新江洋一さんの話から

天明伸宏さんの話から

農村家族、集落の解体と農業の担い手

無償作業員女性の反乱

都市を耕す人びと 香港 バンコク 東京

(安藤丈将「香港を耕す」 川崎・吉岡照充の実践、バンコクの NGO CityFarm 取材メモから)

最後に

アマルティア・セン「貧困と飢饉」

飢饉はなぜ発生するのか

真壁仁と地下水の思想 地域から世界へ

村を掘り、世界にたどり着く

=====

<大野執筆記事>

戦後80年 自作農体制の創出と解体をめぐって（大野）

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/ff492aa44ac988de35af79292d48b471f7e47e65>

いま農業生産現場では何が起きているかー現場からの報告（大野）

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/32775db41b4c64dce5434e82df0ee05eabf025ba>

おこめとおくに その1『窮乏の農村』を読む（大野）

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/03b5437a7d28fa8f40e59b313ae41af9f75ab3e1>

おこめとおくに その2 軍事化と農と食、多重安保構造のもとで（大野）

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/4cfc2cde7571c2c20e0a74e9f141e5a77a23eb9d>

国家主義、排外主義をオーガニックでくるむ参政党に異議あり 有機農業に関わる農民・市民団体が声明（大野）

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/3d2d18d0316ba158a80063adc450ce114d15fa97>

コロナ禍、食料があふれて値下がりしているのに飢えが広がる現実をどう読み解いたらいいのだろう（大野和興）

#Yahoo ニュース

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/860acf26bbe826ef70f625dc0e6f54014b00a4b2>